

## 「自分にとって価値のあるものに時間を使っていく」

### ～ゼミに入るのが目的ではなく、入ってから何をするか？～

星野研究会 S.T.さん 単独インタビュー

経ゼミ委員：そもそもゼミに入ろうと思ったきっかけはなんだったんですか？

S.T.さん：2年生の時の気持ちで話すんですけど、私は会計士を目指していて、会計士試験に大学3年の試験で合格しようと思って勉強していました。

試験が終わったら、しばらく会計士絡みのことは忙しくならなくなるので、大学生としては、大学3年の夏から4年で卒業するまでの間、それなりに時間ができると考えました。特に就活もそんなに時間がとられず、好きなことができる期間が残っているなと思い、次に何をやりたいかな？と考えました。

会計士を目指すために予備校に通って、かなり勉強をしてきました。ですが、大学に入っているのにずっと予備校で勉強していたことに何か違和感がありました。

大学では興味のある授業をとって、そこそこ勉強もしていたんですけど、結局そこから得られたものというよりは、予備校に行って資格を得た、というところが大学生活でやってきたこととして大部分を占めてしまうなと思いました。だから、試験が終わったら大学からもっと恩恵を授かれるように生きていきたいなと思ったんです。そこで、ゼミが選択肢に入ったというのが、入ゼミしようと思ったきっかけなんです。

何を勉強したいかなとおもったときに、私は高校がSFCで受験をしていなくて、学部を選ぶときに、どういう勉強を大学でしようかなという風に考えていた時期がありました。そのときに、統計学にすごい興味をもって、数学が得意だったというのもあって、統計をもうちょっと勉強したいなあと考えたんです。経済学部に入ってきた身なので、統計とか計量のゼミを探していったところ、今の星野ゼミに会ったんです。

星野ゼミは環境として良いのはもちろん、先生が公認会計士協会と理化学研究所にも所属している先生で、そこ名義で一緒に共同研究なさっている方でした。会計士として統計学を活かして生きていきたいなとふわっと思っていて、自分に合った研究ができるんじゃないかなと思い、このゼミにしました。

経ゼミ委員：そうだったんですね。星野ゼミに決めたのはいつ頃だったんですか？

S.T.さん：第一回入ゼミの時に、統計系のゼミを何個かまわっている時に、たまたま星野さんの会計士協会のお話を知ったんですけど、そのときに会った**ゼミ生の方の雰囲気とかが合いそうだな**と思い、**感覚的にはこのゼミが一番いいんじゃないかな**と思っていました。

**第二回は、もうちょっと他のところにも足を運んでみよう**と思って色々みてみたんですけど、やっぱり星野ゼミが一番いいなと思いました。

経ゼミ委員：実際に星野ゼミに入られてみてどうでしたか？

S.T.さん：入ってみたら、口では色々統計に興味があるといっていたものの、全然知識がなくて、大学で計量経済の授業とかは2年生のときにとっていたりはしたんですけど、統計の深い世界のところをちゃんとすでに勉強しているような同級生と一緒に入っていたりして、すでにそこで刺激を受けました。また、**みんなこういうことがやりたい、こういう勉強がしたいという意志をもった人が集まっているゼミだ**と思うので、そういう意味で、自分とは違うバックグラウンドをもった人たちなんです。でも話していてすごく面白いし、だからこそお互いに刺激し合いながら、やりたい勉強を進めながら、一緒に研究とか論文を書いたりしながら楽しいゼミ生活を送らせて頂いているなあと思っています。**刺激を受ける人たちがいたのが一番大きかったのかな**と思います。

経ゼミ委員：試験対策などの準備はどうしていましたか？

S.T.さん：今の二年生にアドバイスできることとしては、**志望理由をしっかりと固めておくことがなんだかな一番大事かな**と思っています。自分は統計学の勉強をしながらも、会計士の仕事とのつながりになるような研究がしたいと思って、それができるのがここしかなかったからここを受けたという一つの軸がありました。

**ゼミを選ぶときに、そういった一つの軸を持っていたりすると、ESを書くときもそこを軸に書くので、しっかりと自分の気持ちが伝わりやすい文章を書きやすかったりしました。**

それに、ESを書いてから一か月後に面接なので、自分が何を書いたか細かいことは覚えていないんですけど、自分がこういうことを考えてきたという軸がちゃんと自分の中にあっただので、それを基にお話しさせていただいたら、色々伝わるものもあったと思います。

あとは、レポートも書かせてもらったんですけど、そのレポートの内容とかにも**自分の興味があるもの、とか自分がESで言っていたことと矛盾しないように、軸に合わせてレポートを一本書いた**ので、トータルでみたときに評価しやすかったのかなと思ったりします。なんで通ったのかはわからないんですけど、その軸が通っている人って世の中でそんなに多くないんじゃないかなとなんとなく、周りの人話とか聞いていて思ったりするので、そこを持っているだけでも大分自分の人生においてもアドバンテージになると思いますし、入ゼミのときにもそれなりにいいところとマッチングできるんじゃないかなと思うので、そこをおすすめします。

経ゼミ委員：ゼミって大きい割合を占めるので、どれだけ準備をしたのか？が効いてくると思うのですが、入ゼミ試験への重要性は何だと思えますか？

S.T.さん：人によって色々差が出るのは、人によってゼミに対する目的意識が違うからなのかなと思います。受験だったら学校に入るのためという目的だけに向かっているの、そこそこ勉強すると思うんですけど、ゼミは入るのが目的ではなくて、入って自分の残りの大学生活を豊かにするために入っている考え方が一般的で、その豊かにするための方法が人によって違うと思うんですよね。例えば、ゼミの中で違ったコミュニティを新しく作って、人脈広げたいとか友達増やしたいという気持ちで入る人もいれば、こういう分野の勉強をしっかりとしたいという研究する目的で入る人もいれば、特にゼミにそんなに憧れがあるわけでもやりたいことがある場所って考えているわけでもないけど、周りが入っているから入っておいたほうがよいのかなという心理的な何かで入る人もいれば、就職活動で自分が大学生の間にしたことってというアピールポイントをつくるために入る人とか、私が聞いた中でもやっぱり色々な目的があるのを感じられたんですよね。

けど、ゼミに入ることが必ずしも大学生の正解なわけじゃないし、私がずっと思っているのは大学生の後半に差しかかってきて、大学生って時間的な余裕がたくさんあるし、バイトとかして自分でそれなりに稼ぐ力ももってるし、将来のことを考えるきっかけもいっぱい与えられるような年代だと思っていて、その大学生ってこの時間は人生の中でももう帰ってこないぐらいの貴重な時間なんじゃないかなと思うので、その貴重な時間を何に使っていくのか、どこに投資していくのかってというのが人それぞれ一番価値があると思う時間が違うと思います。自分に一番価値があるものにいっぱい時間を使っていけたらみんないいんじゃないかなと思っています。

それで、その答えがもしゼミだったら、理由とかも掘り下げていって、ゼミに頑張っただけじゃいいし、別にゼミじゃない可能性も大いにあるし、音楽活動やりたいとか、こういう企業でインターンしてみたいとか、もっとサークルやりたいとか、なんでもいいんですけど、絶対何かしらあるので、そこを考えないでゼミに入ろうかなとか、ゼミとりあえず受けてみようかなみたいな感じで入ゼミ試験を受けても、結局そういうの見透かされちゃうから、入ゼミもできなければ、その入ゼミのために0の準備で挑むわけにはいかないのだからそれなりの時間を費やしたりとかあると思うんですけど、その時間がもったいなかったり、色々あったりするの、**「自分に価値があるものに時間を使っていく」**というのを一番大切にした上で、ゼミに入るか入らないかと、入ったとしてどこに行くのかってというのは選んでほしいというのが今2年生にお伝えしたいお話です。

経ゼミ委員：会計士試験に没頭されていて、後悔などありますか？

S.T.さん：会計士をとったこと自体は後悔してないんですけど、ずっと会計士の勉強ばかりで大学1.2年生を使ってきたことにはやっぱり後悔があったりして、

大学1年のときはサークルとか色々同時並行でやりながら会計士の勉強をはじめて、っていう感じだったんですけど、もっと1年生の時から、スーパー頑張っただけ、もう1年早い年度の試験に向けて合格していたらもう1年大学生フリーな時間増えたよなと思うことはあったりして。

大学生4年間与えられている時間って本当にあつという間に過ぎていっちゃうし、何か一つのことに没頭したらあつという間に終わってしまつて、**振り返ってみた時にああいう生き方もあつたなあ**と違うこととかを考へたりとかするもんなんですけど、**振り返ったときに、それでもやっぱり、自分はこの道を選んできてよかったなと思えるような過ごし方を大学生にはしてほしいな**と思います。多分大学に入る時、みんなそうなりたと思つて、何か1つでも2つでもこういう大学生活送れて良かったなと感じるようなことを探しながら大学生活の最初の方を始めてきたと思つるので、どこかで大学生ってどういふことができるんだらうって考へるポイントは人生の中であつたと思ふんですけど、そのときに感じたことを忘れないで大学生活の中での色んな選別をしていってほしいなと思ふます。

経ゼミ委員：最後に、何か星野ゼミのアピールポイントはありますか？

S.T.さん：星野ゼミは、全然違ふバックグラウンドを持った人が、こういう分野にこういうアプローチで研究してみたいなと思つた人が集まつている世界だと思ふます。自分がやりたと思つたことは、素直に先生も尊重して、こういう研究あるけど参加してみる？とか誘つてくださったりとか、色々バックアップとつてくださったりはするんですけど、いい意味でそんなに手取り足取り色々してくれるわけじゃなくて、自分の意志を一番に尊重して下さるゼミなんです。だから、自分が今はちょっとゼミやりたくないなつて思つたら離れようと思つても全然誰にも止められない世界なので、いい意味で自由に研究つていふ目的で星野ゼミに入りこむこともできれば、ちょっと忙しくて立て込んでいるときは離れることもできるし、残りの大学生活の中で、やりたいことを自分のペースで続けられるいいゼミだと思つているので、おすすめですよ！

～編集後記～

経済学部ゼミナール委員会としても、初めての試みである「学生インタビュー」の第一回が終わりました。私たちは、「先輩たちがゼミを選んだ時にどのように考へ、どのような思いで入ゼミされたのかを1・2年生にもつと伝えたい！」という熱い想いから企画が立ち上がりました。アンケートを4年生の方々に実施し、インタビューの有志を募つたところ、50人以上の方々に快く引き受けて頂きました。1人1人に深くお伺いすることで、1・2年生の皆様のためになることがあるのではないかと考へ、お1人につき30分ほどお伺いしております。この第一回では、ゼミ員2人で実施したのですが、とても濃い時間だったなあとインタビューが終わつた後に話してました。「自分にとって価値のあるものに時間を使つていく」ことは、ゼミ選別だけではなく、この後の皆様の人生にも通ずるところがあると思ふます。また、「ゼミに入るのが目的ではなく、入つてから何をするか？」というお言葉も、これからゼミに入る1・2年生の皆様に刺さるのではないのでしょうか。このインタビューを通して、ゼミに入つて何がしたいのか？というあなたの真の入ゼミ目的を考へるきっかけになれば、幸いです。（田中麻里安）